

令和5年度第5回印西市補助金等評価委員会 会議録

開催日時	令和6年3月13日（水）午後1時30分から午後3時まで	
開催場所	印西市役所 大議室	
出席者	委員	熱田委員、池田委員、木下委員、酒巻委員、斑目委員
	事務局	高平総務課長、酒井課長補佐、一畝田係長、石黒主査補、渡邊主査補
議題	(1) 令和5年度印西市補助金等評価報告書（案）について	
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 資料1 令和5年度印西市補助金等評価報告書（案） 	
会議結果	<p>(1) 令和5年度印西市補助金等評価報告書（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1について委員から意見をいただいた。その内容を反映した報告書は、委員長が市長に報告することとした。 	
議事要旨	<p>【議題（1）令和5年度印西市補助金等評価報告書（案）について】</p> <p>■事務局より資料1の概要説明</p> <p>評価報告書（案）は、委員会を通じて委員からいただいた評価結果及び意見をまとめたものです。</p> <p>AからEまでの評価結果は、各ヒアリングで委員に採点いただいた点数の平均点により判定しています。</p> <p>本日、報告書（案）に対して、委員から追加修正等の意見をいただき、その内容を反映して、確定とします。</p> <p>確定した報告書は、委員長から市長に直接、報告いただきます。</p> <p>■委員からの意見</p> <p>全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の構成について、前々回（平成25年度）と前回（平成30年度）の報告書と形態が違うが、非常に簡潔でわかりやすい。 ・ P2の公益性等の高い・低いの判定基準は。 →平成30年度の評価方法と同様にし、各委員の平均点が3点以上を高い、3点未満を低いとしています。P3に記載していますが、P2に記 	

載することにします。

- ・ P 2 の評価対象の条件が、誤って読み取られそうな表現である。
→評価対象の条件の表現を見直します。

- ・ 目次がある方が見やすい。
→目次を追加します。

(P 4 - P 5)

【1】 印西市自主防災組織活動助成金（総務部 防災課） 評価 A

- ・ いつどのような自然災害が起きるかわからない中で、市民の皆さんに防災意識を持っていただく重要な事業である。

(P 6)

【2】 路線バス運行対策費補助金（企画財政部 交通政策課） 評価 C

- ・ 公益性の視点から見ると、どうしても点数は高くはならないが、必要性和将来性の視点も鑑みると、交通政策は非常に大事であるので、各意見等を考慮しながら継続が良い。

(P 7)

【3】 植物防疫事業補助金（環境経済部 農政課） 評価 D

- ・ お米のように主食になるものは高く売れないところがあり、採算はとれないと思われるので、ある程度公的な補助は必要である。ただし、無人ヘリコプターでないと駄目なのか等、もう少し事業のやり方は考えたほうがいい。見直しをしたうえで、補助金自体は必要である。

- ・ 前回の評価委員会で指摘された、縮小して民間に移行すべきとの意見について、研究してみてもどうか。

- ・ どんな米でも作っていれば、一律に補助金がもらえる制度ではなくて、いいものを作ろうとしている方に、より厚く配分できないか。

- ・ 頑張っている形態が報われる仕組みや制度の補助メニューがしっかりとできると良い。この制度をなくすと、今個々の農家のダメージがもっと大きくなる。高齢化でどんどん廃業が増える中、個人もしくは法人がどれくらい頑張ってくれるかは非常に重要である。

(P 8)

【4】印西市観光振興事業補助金（環境経済部 経済振興課） 評価A

・観光振興は重要な施策なので、これから様々な工夫をして変わっていかねばいけない。

・改めてイオンモールのインフォメーションセンターに行ってきたが、20分居てどなたもいらっしゃらなかったため、もう一工夫ほしい。委託の方とお話したが、観光という前向きな感じのセンターという気がしなかったので、簡単なことでいえば、委託の方が観光協会のハッピーを着る等、もう少しアピールすると良い。人通りはあるので、見た目や、印西市の音楽を流す等のちょっとした工夫でアピールし、来た方を惹きつけ、そこから幅を広げる。せっかく補助金を出しているのでもやってみてはどうか。

・本補助金の大半がインフォメーションセンターの家賃であり、あり方の見直しが必要である。印西市は道の駅はないが、観光パンフレット等の市内の情報について、道の駅や駅の案内所にて収集するケースが多いと思う。そのため、情報発信できる場所について、今のインフォメーションセンターだけでなく、もう少し違うチャンネルを考えてもらいたい。

(P 9)

【5】防犯灯補助金（市民部 市民活動推進課） 評価A

・安心安全なまちづくりの観点で、公益性や必要性が高く、効果も非常にある。手続等について、もう少し簡便な方法で時間がかからないようにできないかを加味しながら継続してほしい。

(P 10)

【6】生ごみ処理容器等購入費補助金（環境経済部 クリーン推進課）

評価A

・(なし)

(P 1 1)

【7】 障害者団体連絡協議会等補助金 (福祉部 障がい福祉課) 評価 E

・障害者手帳を持っている方の数に比べて、団体に加入されている方が少ないので、団体の参加を促すべき。協議会と個別の団体の両方に補助金を出しているが、その団体間で負担金のやりとりがある等の不明瞭な点は、今後検討してほしい。

(P 1 2)

【8】 最重度強度行動障害者特別支援補助金 (福祉部 障がい福祉課)

評価 C

・本補助金は、国の基準額の通り事業者に交付されている事業とのことで、他市にはなく、印西市が単独でやっているものである。事業者が大変ということへの、思いやりの要素があると思うが、本補助金がなくても事業者的には、通常の措置費は貰っているものと思う。

・本補助金は、人件費に対するものとのことで、通った日数に単価を掛ける構成になっている。人件費に対する補助だけで良いのかということと、人件費について1人に対して何人つくべきかの見直しは絶えずしてほしい。

(P 1 3)

【9】 中学校部活動補助金 (教育部 指導課) 評価 A

・(なし)

(P 1 4 - P 1 5)

【10】 印西農産物地産地消推進事業補助金 (環境経済部 農政課)

評価 C

・地産地消の推進であれば、箱や袋の他に何を作るかという内容、統一的にどう売っていくのかという戦略、イベント等でどう PR するか of 展開の工夫がほしい。

(P 1 6)

【11】 小規模土地改良事業補助金 (環境経済部 農政課) 評価 C

・(なし)

(P 17 - P 18)

【12】 印西市シルバー人材センター運営費補助金

(福祉部 高齢者福祉課) 評価 A

・(なし)

(P 19)

【13】 賃借料加算対応補助金 (健康子ども部 保育課) 評価 A

・本補助金は、現時点では必要であるが、分園は本来あるべき姿ではないので、他の保育送迎ステーション等を早く進めてほしい。

(P 20)

【14】 印旛中央土地区画整理組合設立支援補助金

(都市建設部 都市整備課) 評価 A

・本事業については、組合設立までビジョンが見えないところが不安要素である。既に多額を支出してきているが、できるだけ早く組合を設立して本補助金がなくなることを願う。

(P 21 - P 22)

総括について

・②について、記載のとおり、補助金事業は、市の総合計画等に記載された目標等に一致させることが、非常に重要である。今回 14 の補助金を評価したが、評価シート等含め、各補助金が基本計画のどこに位置付けられているかわかりづらかったので、この表現は非常に良い。それから、14 の補助金について、終期が見えづらいものがあった。終期を設定するのは難しいことだが、目標を明示し、目標達成に向けて終期を設定することで良い。どのような状況になったら補助金が終わるか、最終的な状態をわかりやすく表現してもらえると、評価がしやすい。

・③について、「印西市補助金等のあり方」の方針に一致しない補助金がある。この冊子を見れば、担当課も内容がわかるはずなので、評価する際は、事前に担当課にて実態と相違している理由を記載いただければ、よりわかりやすい。

・⑤について、補助金の事業を評価しても、漫然と毎年継続して、同じ形で予算の計上をする可能性が高いので、漫然を防ぐための方策がある

と良い。予算がつく段階での優先順位について、今回の A から E までの評価も加味して勘案できれば幸いである。

・⑥について、今まで5年毎に過去2回の評価委員会を実施し、今回3回目である。事務局として、5年間隔が長い短い等の支障を感じることはあるか。

→事務局とヒアリングを受ける担当課とすれば間隔が短いほど負担が大きくなるのは事実です。評価委員会を実施していない年においても、予算計上時や、交付要綱の改正時に内容を確認しています。第三者による客観的な意見としては、毎年でないにしても必要ということで、5年に1回が一つの基準と思います。

・⑥について、評価委員会を実施する時期的なタイミングについてはいかがか。

→評価委員会を実施する時期について、各担当課が予算計上する前の8月・9月頃に実施できるとベストですが、事務局や担当課の他の業務を含めた時間の余裕の問題で、今年度のスケジュール通りにならざるをえないと思います。

・評価委員会の間隔について、前回評価したのと同じ補助金を、次回も評価する場合、前回の意見を反映して運用を見直し、その状況を反映すると、3年間隔では短いと思う。ある程度の成果が見えるまで、5年目途が適正と思う。評価を実施した補助金はどう変化したかは庁内の組織でもいいのでフォローいただきたい。

・年数の間隔について、3年にする方法もあろうが、社会情勢や経済情勢の変化も考慮すると、市の行政側、補助金をもらう側の改善が難しいと思うので、例えば「原則5年ごとに」という表現にしたらいかがか。対象は、市単独で行う新規の補助金や過去に評価が低かった補助金とする。その次の「必要に応じて既存の委員会」については、考える余地があるが、削除しても良いと思う。

・具体的に表現できないものや制限をかけてしまう表現は、むしろ削除した方が良い。

- ・⑥について、評価方法の見直しについて、追記いただきたい。
→公益性の見方が人によって違うという意見もあるので、わかりやすい方法に見直す旨を追記します。

まとめ

- ・総括のまとめとして、曖昧な表現は伝わりづらいため、わかりやすい表現がないなら削除した方が良い。表現がなければ読み取り可能なものも、曖昧な表現があることで、かえって読み取りが難しくなる。⑥については、今までの意見を踏まえると、基本的には5年ごとに評価を続けていくのが良い。今後のやり方については、委員会の形態も含め、今後、事務局にて検討ということによろしい。

令和6年3月13日に行われた印西市補助金等評価委員会の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

会議録署名委員 斑目 好一